

## 市長と語ろう！タウンミーティング 第9回 議事録

**開催日時** 平成23年10月21日（金） 午後7時～8時30分

**開催場所** 南山内公民館

**参加者** 市民 13人

### 《フリートーク（意見交換）》

1. 学区審議会の審議目的について
2. 星山地区について
3. 笠間発見伝の効果はどのくらいなのか
4. 土壌の放射線量について
5. 来栖本戸線の進捗状況について
6. 吾国山カタクリ群生地崩れた林道について
7. がれき等の回収について
8. 吉原橋手前のコンクリート塀について
9. 放射性セシウムが田畑へ流れ込まないようにしてほしい
10. 涸沼川に堆積する土砂の利活用について
11. 吉原橋下の草刈りについて
12. 笠間駅南側の居住地整備について

### 《内容》

1. 学区審議会の審議目的について

#### 【意見等1】

現在、学区審議会が行われているが、学校の統合について審議されていると聞いた。学区審議会の目的と審議の現況を教えてください。

#### 【回答1】

学区審議会の前に、学校の適正規模の検討委員会で、子どもの教育にはどれくらいの学校の規模がよいのかを議論しました。その結果として、小学校であれば1学年2学級、学校全体では12学級。中学校であれば1学年3学級、学校全体では9学級が、学校の規模として適正であろうという結論が出ました。現在、笠間市内に21校ありますが、その答申にしたがって、学校をどう編成していったらよいかということを学区審議会でも検討していただいているところです。

今後は、学区審議会からの答申を受けて、市の教育委員会で最終的な方針を立て、いつから実施するか等の計画を立てるという流れになっています。適正規模に基づいて行いますので、21校すべての学校が残ることはありえないと思います。教育委員会でルールを敷いているのではないかとはいわれますが、学区審議会はそれぞれの地区から委員さんに出していただいて、話し合いをしていただいています。答申が出されるにはまだ時間がかかると思いますが、答申を出していただいたら、教育委員会で実施計画を立てます。実施計画ができれば、各学区に出向いて教育委員会が説明をしていきます。学区審議会の経緯等は、ホームページで見られますので、ご覧になってください。学校から遠くなったらどうやって通学するのかという心配も聞きますが、その通学方法については市や教育委員会で考えていきます。過去に学校の統廃合では大変もめた経緯がありますので、親だけでなく、地域の方々にも関心をもってください、議論していくことは必要だと思います。

今、少子化によって子どもたちが小さな集団で勉強しています。これまで学力は、知識・理解とされてきましたが、グローバルな社会になり、外国と対等に渡り合える日本人になっていくために、人とどう付き合うか、自分の思いをどう伝えられるかなど、集団の中でどう生きていくかといったところが必要なのではないかと思っています。家庭でも地域でも子どもたちは、少ない人数の中で育っています。そして、学校でも少ない人数で育っていくということには課題があると、

国や県等で行われています。

1 学年 1 学級の学校の場合、同じクラスで 6 年生まであがっています。そうすると、人間関係が固定してしまっていて、がんばろうとか切磋琢磨する機会がなくなるという問題が出てきますので、もう少し大きな集団で育てていった方がよいという考え方もあります。

**【意見等 2】**

小さな規模の学校の児童を大きな規模の学校に移すのではなく、大きな規模の学校の児童たちを小さな規模の学校に散らしたらよいのではないかと。

**【回答 2】**

おっしゃるような意見も学区審議会の中で出ています。また、それに対する反対意見もありますので、現在話し合っているところです。

**【意見等 3】**

審議会では、現在の子どもの人数で考えているのか。

**【回答 3】**

将来の推計値で検討しています。

**【意見等 4】**

今後、特に笠間地区の人口が減っていくといわれているが、その対策はあるのか。

**【回答 4】**

特に旧笠間地区の合併後の人口減少が大きく、6 年間で 2,300 人くらい減っています。笠間市全体では、出生数は年 600 人くらいで、約 10 年前は 800 人くらいでした。それに対して亡くなる方は、以前は 600 人くらいだったのが、900 人くらいに増えています。そういった人口構造に笠間市は陥っていますので、それを少しでも押さえようと、少子化対策をしたり、若い人が市外に流出していかないように定住化対策をしたりするところに力を入れていかなければならないと思っています。

**【意見等 5】**

学区審議会の方向性はどうなっているのか。

**【回答 5】**

審議の途中であり、審議委員さんの意見で動かしてしまっただけではないということもあって、市からは、中間報告はなかなかとりにくい状況にあります。しかし、保護者の方が心配しているということですので、学校の校長等を通して、まだ一切決まっていないということはお知らせしています。たとえば実施計画ができて、急に学区が変わることはありません。現況については、できればホームページを閲覧したり、審議会を傍聴したりしていただきたいと思います。

## 2. 星山地区について

**【意見等】**

星山地区に有機農場等の建設を予定されていると聞かすが、予定地そばの川に土砂が流れ込み、小さなため池ができてしまった。川の下流には田んぼがあるので春頃までには、ため池を解消し、田んぼに水が来るようにしてほしいという内容の要望書を出したがどうなっているのか。地区の住民たちは、たくさんの大型車が来るようになり、不安になっているので、何らかの説明が欲しい。

**【回答】**

ご意見については先日、要望書をいただき、読ませていただきました。

経過については、星山地区には過去にゴルフ場の計画があり、その計画が破綻した後、所有者が何代か変わり、10 年ほど前にスポーツ施設を作るといって業者が変わっています。道路を通る大型車の台数が多かったり、過積載があったり、道路を汚したりしていますので、行政としては道路の清掃管理、警察は過積載といった指導や取り締まりをしているのが現状です。地元で迷惑をかけているということがありますので、警察と連携をとりながら、指導をしていきたいと思っています。業者の方では、地元の方と話し合いを持ちたいということですので、地元の方と業者の懇談会の中で、話し合ってくださいということも必要なのかなと思います。市としても、状況を

確認して業者に伝えていきます。

運搬されている土については、同じ場所から土を持ってきているのではなく、いろいろなところから土を持ち込んでいるようです。法的な拘束力はありませんが、地元の方がいろいろと心配しているということもあり、市では土壌の調査結果を提出してもらうようにしました。その中では、特に異常はありません。法的な拘束力はありませんので、お願いして提出してもらっているところです。

### 3. 笠間発見伝の効果はどのくらいなのか

#### 【意見等 1】

笠間は人口が減っているが、観光客を呼びこめば活性化してくると思う。笠間発見伝を作ったことでどれくらい効果があるのか。

#### 【回答 1】

笠間発見伝は、観光協会が旅行業登録を行い、市と一体となって日帰りのツアーを企画しているものです。観光協会が旅行業登録を行っているのは笠間だけなので、先進的なものです。笠間発見伝の利用者を基に、笠間に来ている人（観光客）の統計をとりましたが、結構、観光客は来ています。旧笠間地区は観光施設や行事等が多いので、観光のメインとなっています。

今回震災により、山の荘さんや井筒屋さんが被害を受けてしまい、宿泊の受け入れ場所が少なくなりましたので、宿泊型の観光は難しくなっています。ですから、日帰り型の観光に力を入れています。B級グルメや菊まつりなどが行われ、これからもいろいろなイベントが行われますが、イベントのときはかなりの観光客が来ています。

問題は、イベントを除いた平日です。平日の観光客をどうしていくかが課題となっていて、行政としては客を呼び込む適地として、稲荷神社の門前通りとギャラリーロードの二つを整備していこうと取り組んでいるところです。ギャラリーロードについては、今年コンサルタントを入れ、おしゃれな街灯をつけるなど道路のグレードアップを考えています。お店の人たちも非常に協力的に取り組んでいただいています。門前通りについては、旧態依然のままであり、どうしたらよいかということで、去年一方通行にして、歩行者優先にしていこうと試験を行ったのですが、なかなか受け入れてもらえません。市と地元の方との懇談会を定期的に行うことを始めたところです。地元の方は、地震で被害を受けてこのままではいけないという思いをもっているようですので、これを機会に、門前通りの雰囲気を活かした道路や店づくりをしていきたいと思っています。市も一体となって支援策を示していきたいと思いますが、建物など個人の資産に必要な以上の税金を投入していくことはできませんので、それ以外の環境整備をどうしていくか考えていきます。

#### 【意見等 2】

門前通りに車が入れないようにしたらどうか。

#### 【回答 2】

全面通行止めをしてはどうかと提案したのですが、なかなか理解をいただくのは難しい状況です。

#### 【意見等 3】

若い人たちが観光できるようにしなければいけないのではないか。

#### 【回答 3】

今年の菊まつりは震災の影響で、あまり観光客が来ないと思っていましたが、たくさんの方が来てくれています。これは、笠間の大きな財産です。せっかくの財産をさらに膨らませていくためには、何らかの手を加えていかないといけないと思っています。

よく話し合いをしながら、折り合いをつけていきたいと思っています。最終的には、地元の方の利益になるようにいろいろな取組みをやっていきます。

#### 4. 土壌の放射線量について

##### 【意見等 1】

県内 44 市町村の放射線測定の結果が 2 週に 1 回くらい新聞に掲載されている。市でも 21 の小中学校のグラウンドの測定結果を週報に掲載している。県は地上 1メートルの高さで測定し、市は地上 50センチメートルの高さで測定している。1メートルで測定した結果よりも、50センチメートルで測定した結果の方が、数値が高い。ということは、土壌の方が高いということなのか。

##### 【回答 1】

土壌調査も行っています。7月と8月の2回、学校、幼稚園、保育所で測定し、その数値は安心できる数値となっています。都市公園や市内のグラウンドについても空間線量の調査を行っており、安心できる数値となっています。また、その結果については、ホームページで公表しています。

##### 【意見等 2】

空間線量については、今まで調べていなかっただけで、中国で核実験を行っていたときの方が、放射線の量が高いということを知ったが。

##### 【回答 2】

その当時の方が放射性物質の空間線量は高いと一般的に言われていますが、実際に測ったデータがないので、実証はできません。

##### 【意見等 3】

ホットスポットというのは、ヘリコプターなどで調査をするのか。

##### 【回答 3】

茨城県内の地上の放射線量については、文部科学省と茨城県で行っており、ホームページに掲載しています。それでは、笠間市は県南から比べますと、それほど高くなく、安心できる状況です。

##### 【意見等 4】

茨城県では、東海村が昔から放射線量を測っているのか。

##### 【回答 4】

JCO の事故前は、東海村とつくば市で放射線量を測定していました。JCO の事故以後、東海村周辺、近くでは水戸市に放射線測定の固定器を設置して測定を始めました。

##### 【意見等 5】

東海村の原子力発電所から 30km 圏内に笠間市も入ることだが、脱原発についてどう思うか。

##### 【回答 5】

エネルギーをどうするかという根幹の問題だと思います。原発の事故以後、脱原発の声が大きくなっているのは事実ですが、東海村村長と話したときは、明日から脱原発ということではないという内容で理解しました。

一気に脱原発というわけにはいかないと思います。長期的な中で、段階的に原子力エネルギーを少なくしながら、再生可能なエネルギーを拡大していくことが必要だと思います。今、定期点検中を含めて 7割くらいの原発が動いておらず、このまま再開しないとこれから検査に入るところを含めると全部が動かなくなってしまう。それに変わって他のエネルギーで代替できるかという、それもなかなかできません。段階的に減らすことは必要だと思っていますが、一度に停止というわけにはいかないと思っています。

東海村の原子力発電所は、古いので再開したとしてもそれほど長く使えるような原子炉ではないのではないか、と思っています。30km 圏内に入る自治体としては、再開せず、廃炉をもっていったらよいのではないかと考えています。

#### 5. 来栖本戸線の進捗状況について

##### 【意見等 1】

「わかりやすいかさまの予算」の 5 ページには幹線道路の整備ということで、来栖本戸線の整

備があげてあるが、進捗状況はどうなっているか。

**【回答 1】**

来栖本戸線は全体で 3,200m を計画していますが、現在、用地買収を行っています。約半分くらい、国道 355 号からフルーツラインまでは、用地買収は終わっています。残りの広域農場から稲田川までを今年行っています。進捗率は今年の段階で事業全体の 20 パーセントです。24 年度から工事に入る計画です。潤沼川につながる国道 355 号のバイパスについては、来栖の跨線橋をまたいでいる工事を行っています。25 年度ぐらいまでには、来栖のパワーmarkt 直営農場のところまでつなげたいというのが県の考えです。全部がつながるまでには、25 年度以降 10 年かかると思います。

**【意見等 2】**

県道 109 号が本戸地区を通っているが、まだ途中でその後、進まないようなので県に要望して欲しい。

**【回答 2】**

稲田友部線については、今年、本戸地区の土地改良を行っている用水池のところで霞ヶ浦用水の管がきているのでそこを整備し、来年以降は、市の方で福原から本戸につながる道路を香取神社のところにつなげて、クランクのところを開通できるようにしたいと思っています。県で行っていますが、県も地震の影響で予算がつかず、進みが遅くなっている状況のようです。できるだけ県にお願いしていきます。

6. 吾国山カタクリ群生地崩れた林道について

**【意見等】**

今年 4 月には吾国山カタクリ群生地が崩れてしまって、入ることができなかったが、来年 4 月には入れるようになるのか。

**【回答】**

吾国山カタクリ群生地の林道の工事は今年発注しているので、来年 4 月には通れるようになると思います。

7. がれき等の回収について

**【意見等】**

震災後、がれきを市が集めてくれていたが、また集めたりしないのか。

**【回答】**

がれきの回収については、6 月 30 日に終了しました。それ以降は自己責任で行っていただきたいと思っています。その方針は変わっておらず、新たに回収を行う予定はありません。

なぜ 6 月 30 日でやめてしまうのかというご意見もありますが、基本的には、倒れたものや屋根から落ちたものを「がれき」という考え方ですので、期限を決めて終わりにさせていただきました。確かにまだ屋根は直っていないところがほとんどで、自己負担でやっていただくのは、ご苦労をおかけしますが、よろしくお願ひします。

8. 吉原橋手前のコンクリート塀について

**【意見等 1】**

吉原橋の手前にコンクリート製の塀があるが、破損が激しく、子どもたちが通学路として通るところなので、とても危険なので何か対応策を講じて欲しい。

**【回答 1】**

所有者にやっていただくのが基本です。地元の方から、工場の方に話はされたのでしょうか。

**【意見等 2】**

要望は出しているが、回答はない。

**【回答 2】**

所有者がやらないからといって行政が対応することはできませんが、合併前からこの相談は受

けておりまして、所有者の方には市から申し入れをし、「対応します」という返事をいただいています。しかし、いつやるということは聞いていませんでしたので、もう一度特に危険なところはやってもらうように伝えます。

#### 9. 放射性セシウムが田畑へ流れ込まないようにしてほしい

##### 【意見等】

文部科学省の航空機で測定した放射能のデータによると、難台山の山頂、南吉原のお墓、佐白山の傾斜が急になっているところが高くなっている。雨が降ると山から田畑の方へ水が流れ込み、濃縮されたセシウムが入り込むのではないかと心配している。水路を工夫して、流れ込まないようにしてほしい。

##### 【回答】

よく調べてみます。

#### 10. 涸沼川に堆積する土砂の利活用について

##### 【意見等】

涸沼川に堆積する土砂の使い道など検討してほしい。

##### 【回答】

農業委員会を通じて、農地の復元するところに、堆積した土砂を運んでいます。他には、なかなかすぐには思い浮かばないのですが、検討してみます。

#### 11. 吉原橋下の草刈りについて

##### 【意見等】

水戸線の下から吉原橋まで、県の方で草を刈ってもらっている。吉原橋から下は、私たちが毎年ボランティアで竹などを刈っている。年に4回か5回も草を刈っていて大変なので、何か補助はないのか。

##### 【回答】

河川も道路も県管理のものと、市管理のものがありますが、近年その維持管理、特に草刈りが問題となっています。農村部では、地元の方がたんぼなどと一緒に草刈りをやってくださっていて、行政は必要最小限のところということになっています。しかし、高齢化が進み、河川掃除や草刈りができないという話が出てきています。最終的には、最低限は行政がやらなければならないと思います。全部はできませんが、生活に支障があるとか、危険性の高いところは行政で行います。道路の管理については、里親制度を設けていますが、河川も対象にするなど、工夫をしていかなければならないと思っています。

限られた予算でサービスを行っていますが、笠間市の主な幹線道路は大体完成に近いと思いますので、これからは新設の道路を造るよりも、維持管理にシフト替えしていく必要があると思います。行政は説明責任を果たすよう努力していくので、それを住民の方は理解してほしいと思います。

#### 12. 笠間駅南側の居住地整備について

##### 【意見等】

旧笠間地区の人口が減っているが、定住化対策として具体的に何をやっているのか。水戸線の乗客を増やすために笠間駅近くの人口を増やす必要がある。民間がやりやすいように行政が駅南側の整備をして欲しい。

##### 【回答】

笠間市として考えると、笠間駅南側に市営住宅などを造る予定はありません。住宅施策をする場合は友部地区の方が効果を見込めると考えています。